

篠原 優さん (山口県周南市出身)
2016 年度 2 次隊 青年海外協力隊
派遣国：ガーナ 職種：青少年活動
2018 年 1 月 28 日 (日) 中国新聞 SELECT 掲載



※中国新聞社の許諾を得ています

日本文化通じ人材育成

ガーナと言えば、チョコレート。カカオのイメージが強いだろう。ガーナ人は気さくにあいさつをする習慣があり「オプロニ、エテセイン(白人さん、元気?)」と通りすがりの人でさえ、声を掛けてくれる。

ガーナには 10 もの現地語があり、私の住む地域はチュイ語が使われている。乾期と雨期があるが基本的に年中暑いので、私は辛い料理で体力を付けている。他方でガーナ人は肌寒くなる日がある雨期に、パーカーやセーターを着ている。寒さにめっぽう弱いのだと驚いたものだ。



大使館が開いた、よさこい大会にも参加。生徒たちは元気よく踊りを披露し、去年は優勝した

私は首都アクラの西 30 ㎞に位置するメアリー・スター・オブ・ザ・シー国際学校で日本語・日本文化を教えている。2006 年から日本語教科が導入され、小 1～中 1 までは必須だ。

文化を知るためには言語を、言語を学ぶためには文化を。日本語学習の目的は日本が戦後成長したように、日本を見本にする事である。そのためには、どのように変わっていくべきかを考えなければならない。

言語学習に加え、生活習慣や行事などについて、日本ではどのように振る舞い取り扱われるかを学ぶ。その他には絵画コンテスト、日本人学生との文通を行うとともに、リコーダークラブ、ダンス指導など情操教育にも力を入れている。

ガーナの文化との違いを見つけ、多くの事を感じてほしい。日本を通して生徒たちの世界が広がり、未来のガーナを考えられる子どもが増える事を願い、彼らと多くの経験を共にしたい。